

平成30年3月期 決算説明会

平成30年6月14日



イメージ情報開発株式会社

東証JASDAQ：証券コード 3803

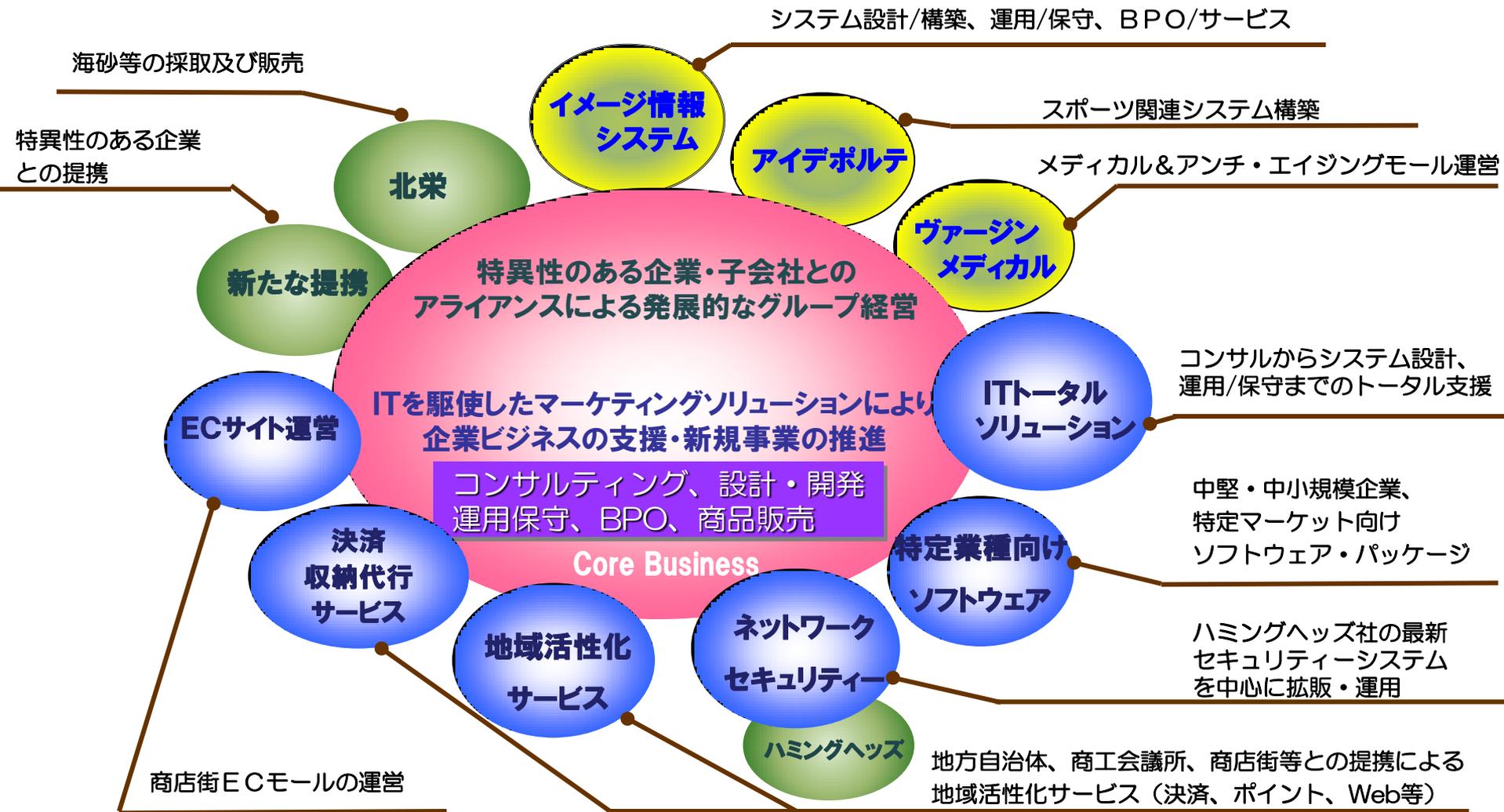
- I グループ概要**
- II 資本準備金の額の減少及び剰余金の処分**
- III 平成30年3月期 決算概要**
- IV 新設会社分割**
- V アイデポルテを連結子会社化**
- VI 中期経営計画（計数計画）**
- VII 今後の中期戦略**

【設 立】	1975年（昭和50年）10月
【代 表 者】	代表取締役社長 代永 衛
【資 本 金】	4億6,705万円
【事 業 内 容】	情報システムの設計/開発、運用/保守、BPO/サービス
【本社所在地】	東京都千代田区神田猿楽町 2-4-11 犬塚ビル
【子 会 社】	イメージ情報システム株式会社、株式会社ヴァージンメディカル、株式会社アイデポルテ
【沿 革】	昭和50年10月 会社設立 昭和51年4月 コピューデータとイメージデータを複合処理する事業を開始 昭和55年12月 本社事務所を東京都港区新橋に移転 昭和59年4月 システムインテグレーション事業に進出 平成16年4月 セキュリティサービス販売を開始 平成18年4月 プライバシーマーク認定取得（イメージ情報システムに移管） 平成18年4月 大阪証券取引所（現東京証券取引所）JASDAQに株式上場 平成19年5月 本社事務所を東京都港区芝大門に移転 平成21年12月 イクオス株式会社（現株式会社ヴァージンメディカル）設立 連結子会社化 平成23年7月 本社事務所を東京都千代田区神田猿楽町に移転 平成25年10月 株式を200分割 平成29年10月 新設会社分割によりイメージ情報システム株式会社を新設 平成29年10月 株式取得によりエクストップエスオー株式会社（現株式会社アイデポルテ）を連結子会社化 平成30年3月 第1回新株予約権を発行

イメージ情報開発グループについて



「システム設計・構築を基盤にマーケティング機能を付加した総合サービスによる企業ビジネスの支援」、
「自社製品の販売・サービス提供」、「特異性のある、子会社の育成、他企業とのシナジー」で構成します。



- I グループ概要
- II 資本準備金の額の減少及び剰余金の処分
- III 平成30年3月期 決算概要
- IV 新設会社分割
- V アイデポルテを連結子会社化
- VI 中期経営計画（計数計画）
- VII 今後の中期戦略

資本金の額の減少及び剰余金の処分



第42期純損失 251,593千円



利益剰余金 Δ 506,111千円

早期復配体制への移行

資本政策の柔軟性及び機能性の確保

単体の純資産の動き (平成29年6月30日現在)

【単位：千円】

振替前		変動額	振替後	
資本金	467,050		—	467,050
資本準備金	510,270	Δ 506,111	4,159	
利益準備金	2,000	—	2,000	
繰越利益剰余金	Δ 508,111	506,111	Δ 2,000	
利益剰余金合計	Δ 506,111	506,111	0	
純資産	375,402	—	375,402	

- I グループ概要
- II 資本準備金の額の減少及び剰余金の処分
- III 平成30年3月期 決算概要
- IV 新設会社分割
- V アイデポルテを連結子会社化
- VI 中期経営計画（計数計画）
- VII 今後の中期戦略



当社は、平成30年3月期第2四半期連結累計期間において、株式会社北栄への債権全額に対して貸倒引当金315,125千円を特別損失に計上いたしました。

同社は沖縄県において海砂の採取、販売を行っておりますが、大型案件の遅延や所有船舶の修繕により債権の回収が滞っていることから平成29年3月期において188,145千円の貸倒引当金を計上し、当社が保有する同社株式に対して投資有価証券評価損19,950千円を特別損失に計上しておりました。

同社の事業環境は良好なもの、船舶の増設が実現できず、予定しておりました債権の回収が滞っており、回収可能性を合理的に説明することができないことから、同社への債権全額に対して貸倒引当金を計上するとの結論に至りました。現在は船舶が稼働しており、また大型案件に対する海砂の供給が平成30年には開始する見込みであることから、同社では船舶の増設の準備を進めており、今後も引き続き債権の回収に努めてまいります。

【単位：百万円】

	平成29年3月期 年度末実績	平成30年3月期 年度末実績	対前期比	
			増減	増減率 (%)
資産合計	662	387	△275	△41.5
流動資産	222	239	16	7.4
固定資産	439	148	△291	△66.3
負債合計	276	313	38	13.6
流動負債	131	156	25	19.3
固定負債	144	157	12	8.5
純資産合計	386	73	△313	△81.0
負債純資産合計	662	387	△275	△41.5

- ✓ 流動資産：受取手形及び売掛金 17百万円増、短期貸付金 15百万円増
- ✓ 固定資産：アイデポルテの「のれん」16百万円増、貸倒引当金 317百万円計上
- ✓ 流動負債：短期借入金 30百万円減、1年内返済長期借入金23百万円増
- ✓ 固定負債：長期借入金 17百万円増
- ✓ 純資産：当期純損失 319百万円計上

【単位：百万円】

	平成29年3月期	平成30年3月期	対前期比	
	実績	実績	増減	増減率 (%)
売上高	804	815	11	1.3
売上原価	729	683	△46	△6.4
売上総利益	74	131	57	76.8
販売管理費	123	127	4	3.0
営業利益	△49	4	54	—
経常利益	△42	5	48	—
親会社株主に帰属する当期純損失	△255	△320	△65	—

- ✓ 売上高：前上期サーバ入替（商品販売）が完了したが、システム設計/構築売上高増および10月から連結子会社化したアイデポルテの売上計上等により売上高11百万円増
- ✓ 利益：売上原価率改善（90.7%⇒83.8%）により、営業利益、経常利益の黒字を確保するも、特別損失315百万円により親会社株主に帰属する当期純損失320百万円となる

■ 当期連結業績

◎ 売上高 815百万円(前期:804百万円)

(単位: 百万円)

	コンサルティング /設計/構築	運用/保守	商品販売	BPO/ サービス	合計
平成29年3月期	402	100	125	175	804
平成30年3月期	510	102	32	169	815
増減率	26.8%	1.9%	△74.0%	△3.3%	1.3%

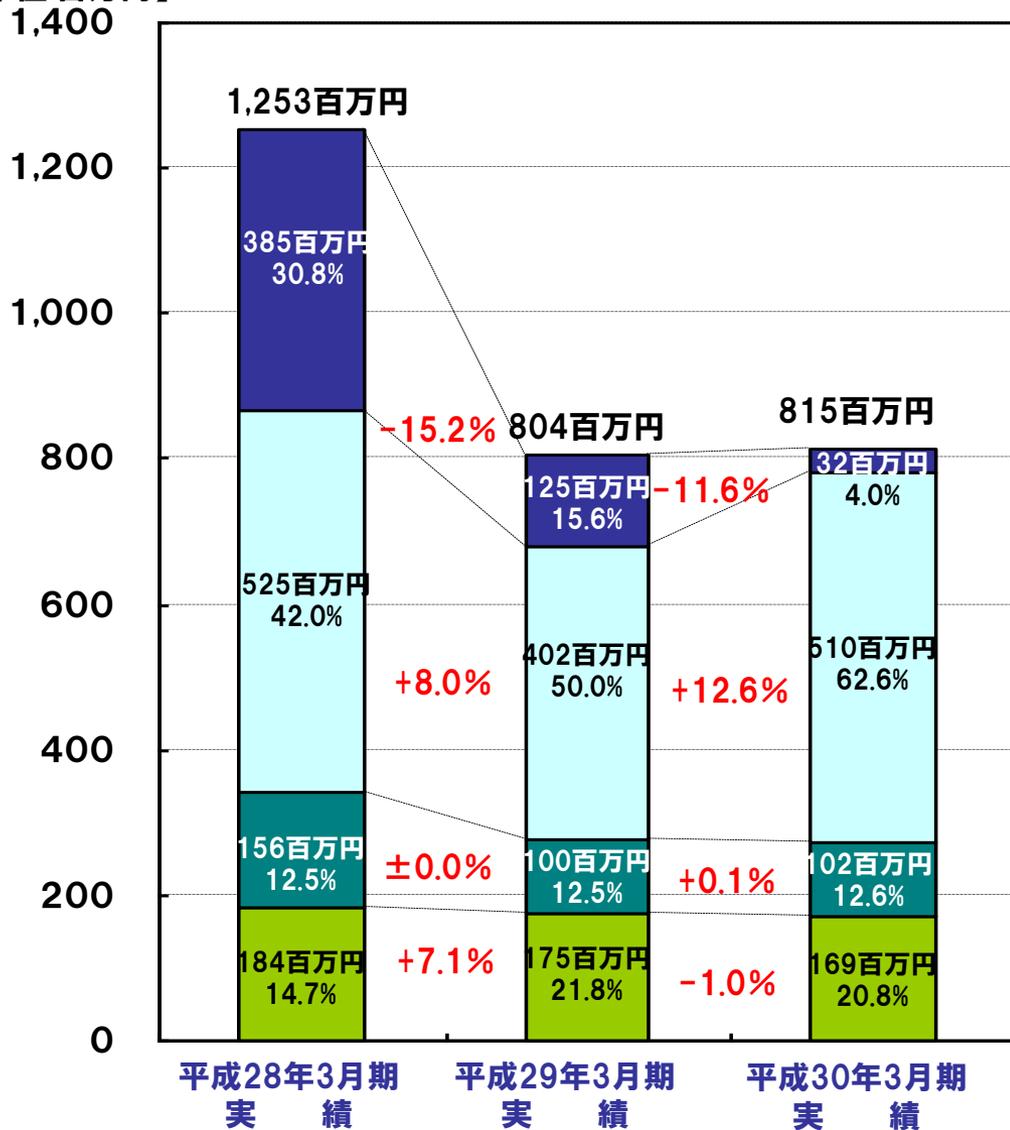
◎ 経常利益 5百万円(前年同期:経常損失 42百万円)

◎ 親会社株主に帰属する当期純損失
320百万円(前年同期:純損失 255百万円)

売上構成【連結】



【単位:百万円】



商品販売

大型サーバ入替終了により大幅減

コンサルティング/設計/構築

29年3月期はアンダース連結除外により減少、30年3月期は10月からのアイデポルテ加算もあり増加

運用/保守

29年3月期はアンダース連結除外により減少

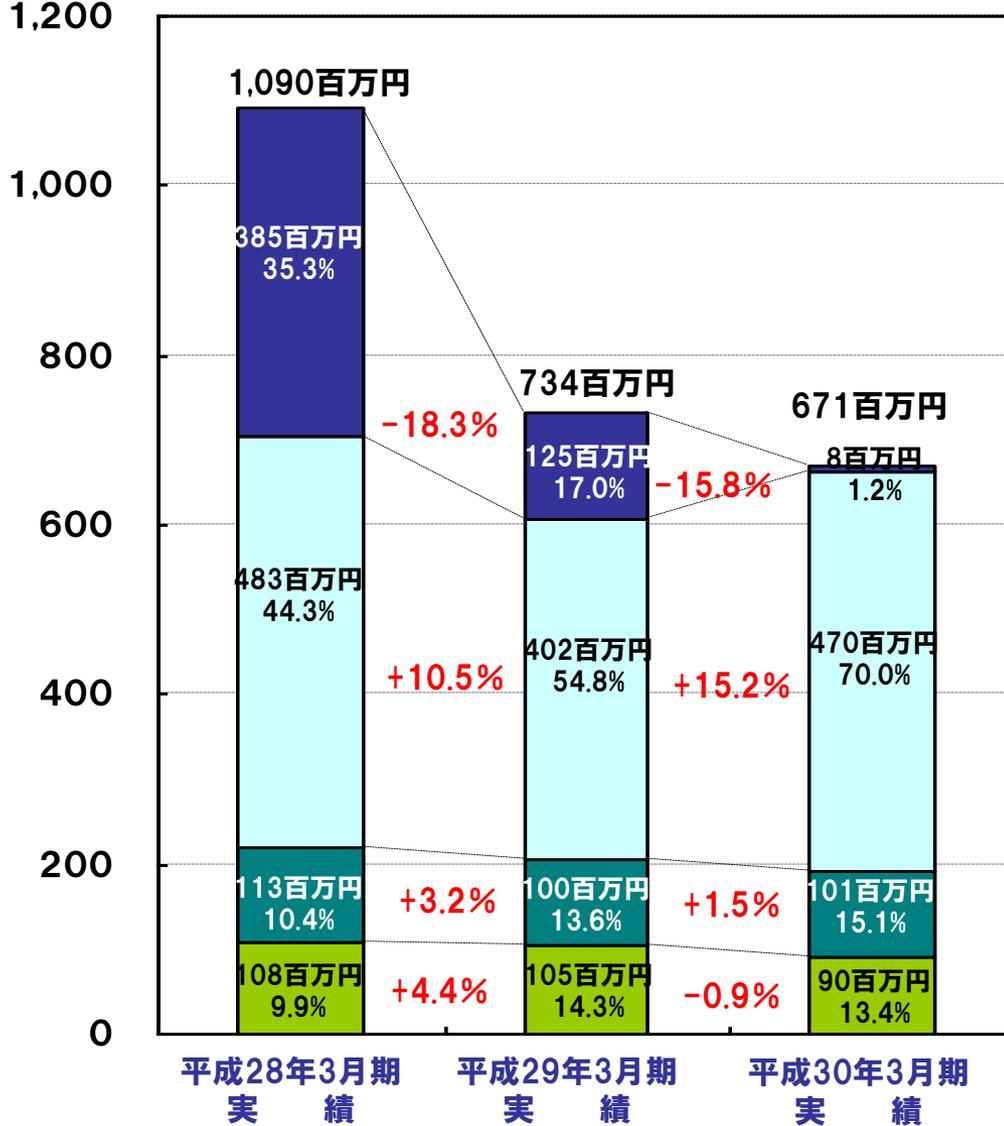
BPO/サービス

商工会議所ならびに地域商店街等向けクレジット決済サービスやや減少、アイデポルテ加算で横ばい

イメージ情報開発単体の売上構成(30年3月期はイメージ情報システムを含む)



【単位:百万円】



商品販売

大型サーバ入替終了により大幅減

コンサルティング/設計/構築

29年3月期は大型サーバ入替に伴うシステム設計の終了により減少

運用/保守

ほぼ現状を維持

BPO/サービス

商工会議所その他でのクレジット決済サービスが減少

キャッシュフロー【連結】



【単位：百万円】

	平成29年3月期 実績	平成30年3月期 実績	対前期比 増減
営業活動によるキャッシュフロー	△ 24	17	42
投資活動によるキャッシュフロー	△ 0	△ 56	△55
財務活動によるキャッシュフロー	25	0	△24
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	0	△ 38	△38
現金及び現金同等物の期末残高	112	74	△38

✓ 営業活動CF：税金等調整前当期純損失	△309百万円
貸倒引当金の増加	317百万円
✓ 投資活動CF：貸付による支出	△85百万円
貸付金の回収による収入	57百万円
✓ 財務活動CF：借入による収入	85百万円
借入金の返済による支出	△82百万円
自己株式の処分による収入	30百万円
自己株式の取得による支出	△34百万円

- I グループ概要
- II 資本準備金の額の減少及び剰余金の処分
- III 平成30年3月期 決算概要
- IV 新設会社分割
- V アイデポルテを連結子会社化
- VI 中期経営計画（計数計画）
- VII 今後の中期戦略

当社の経営理念

変革を求める企業・団体に対し、先進的ITを駆使した独自のサービスや機能の提供を通じ社会に貢献する

プラットフォーム事業への取組

多岐にわたる事業多角化

持株会社化によってこれを促進

会社分割計画の骨子

新会社の商号はイメージ情報システム株式会社

新会社は、現在の現業部門を承継

分割期日は平成29年10月2日

北栄社へのコンサル事業は持株会社が継続

- I グループ概要
- II 資本準備金の額の減少及び剰余金の処分
- III 平成30年3月期 決算概要
- IV 新設会社分割
- V アイデポルテを連結子会社化
- VI 中期経営計画（計数計画）
- VII 今後の中期戦略

当社の経営理念

変革を求める企業・団体に対し、先進的ITを駆使した独創的サービスや機能の提供を通じ社会に貢献する

スポーツ&ヘルスケア事業への取組

これまで株式会社エクストップテクノロジー株式会社が培ってきたスポーツ分野におけるIT関連事業とイメージ情報開発が得意としてきた先進メディア・BPO事業を統合することで『スポーツ・健康』をテーマにした、新時代の《ライフスタイル支援型IT企業》を創生することを目的に、当社はエクストップテクノロジー社の子会社であるエクストップエスオー社（現株式会社アイデポルテ）の第三者割当に応じ、**2017年10月20日に50%の株式を保有し、連結子会社化をいたしました。**

出資にあたり、同社の代表取締役には当社取締役である長峰貴博氏が就任しております。

- I グループ概要
- II 資本準備金の額の減少及び剰余金の処分
- III 平成30年3月期 決算概要
- IV 新設会社分割
- V アイデポルテを連結子会社化
- VI 中期経営計画（計数計画）
- VII 今後の中期戦略

平成31年3月期の通期業績予想【連結】



(単位：百万円)

	平成30年3月期 (実績)	平成31年3月期 通期予想			
		上期	下期	通期	前年比(%)
売上高	815	461	524	985	120.9
営業利益	4	12	34	46	1053.3
経常利益	5	13	34	47	845.1
親会社株主に帰属 する当期純利益	△320	8	26	34	—

- 受注案件受入増に伴う社内人材の増強と外部人材リソースの活用
- 大型業務受託案件の確実な取り込み
- 新規事業及びM&Aは考慮せず



コンサルティング/設計/構築

- 新規取引先の拡充と新規案件の受注拡大
- 外部人材リソースを活用した受注規模拡大
- パッケージ商品のカスタマイズ受注の推進
- 売上原価率上昇の歯止め

運用/保守

- システム構築後の保守業務受託
- ECサイトメンテナンス業務の維持、拡大

プラットフォームビジネス

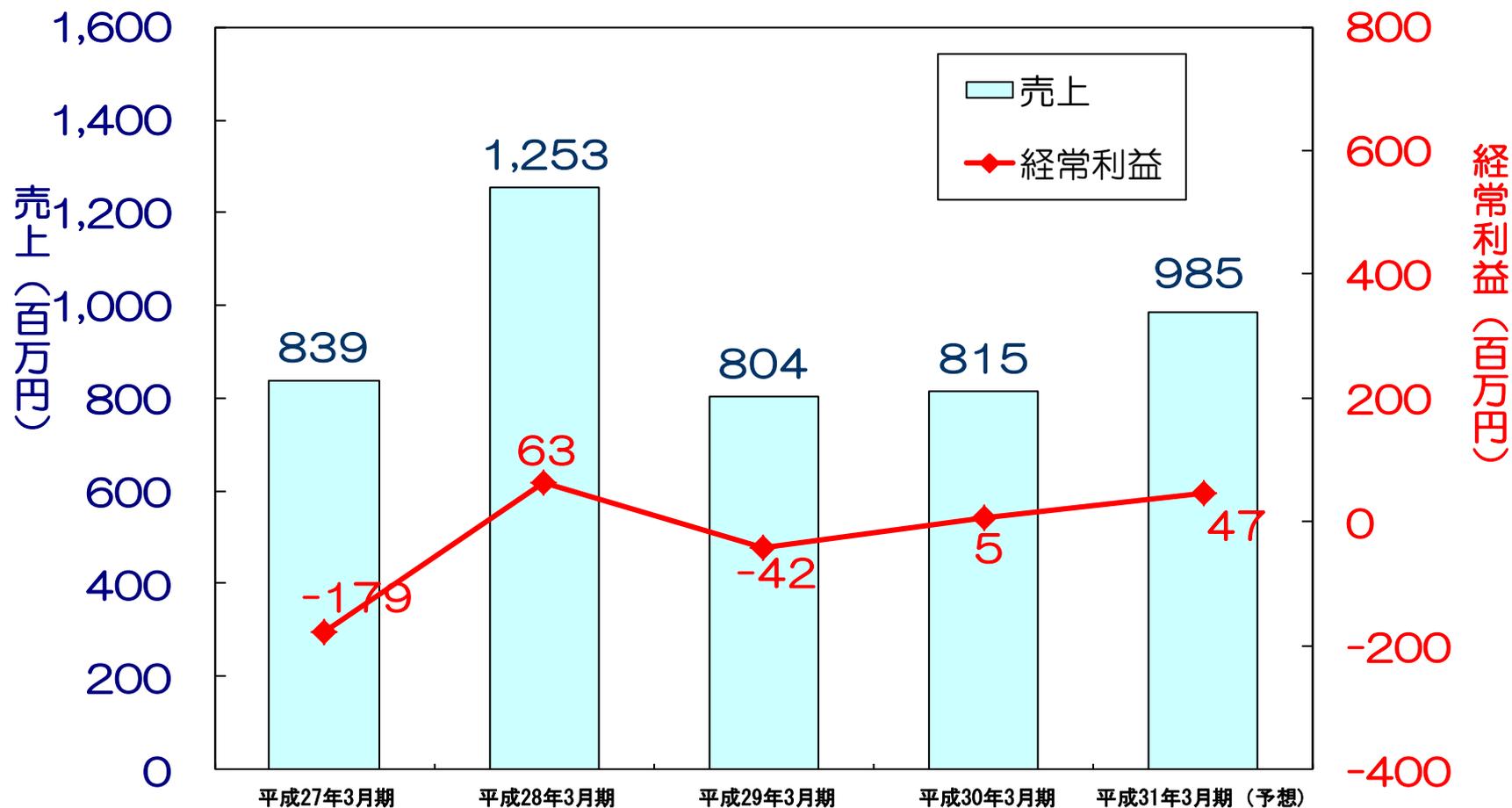
- セキュリティプラットフォーム
- 地域活性化プラットフォーム
- ヴァーチャルリアリティ ネットワーク化 (検討中)

商品販売

- セキュリティソフトライセンス販売の強化
(自治体営業強化/販売代理店拡)

BPO/サービス

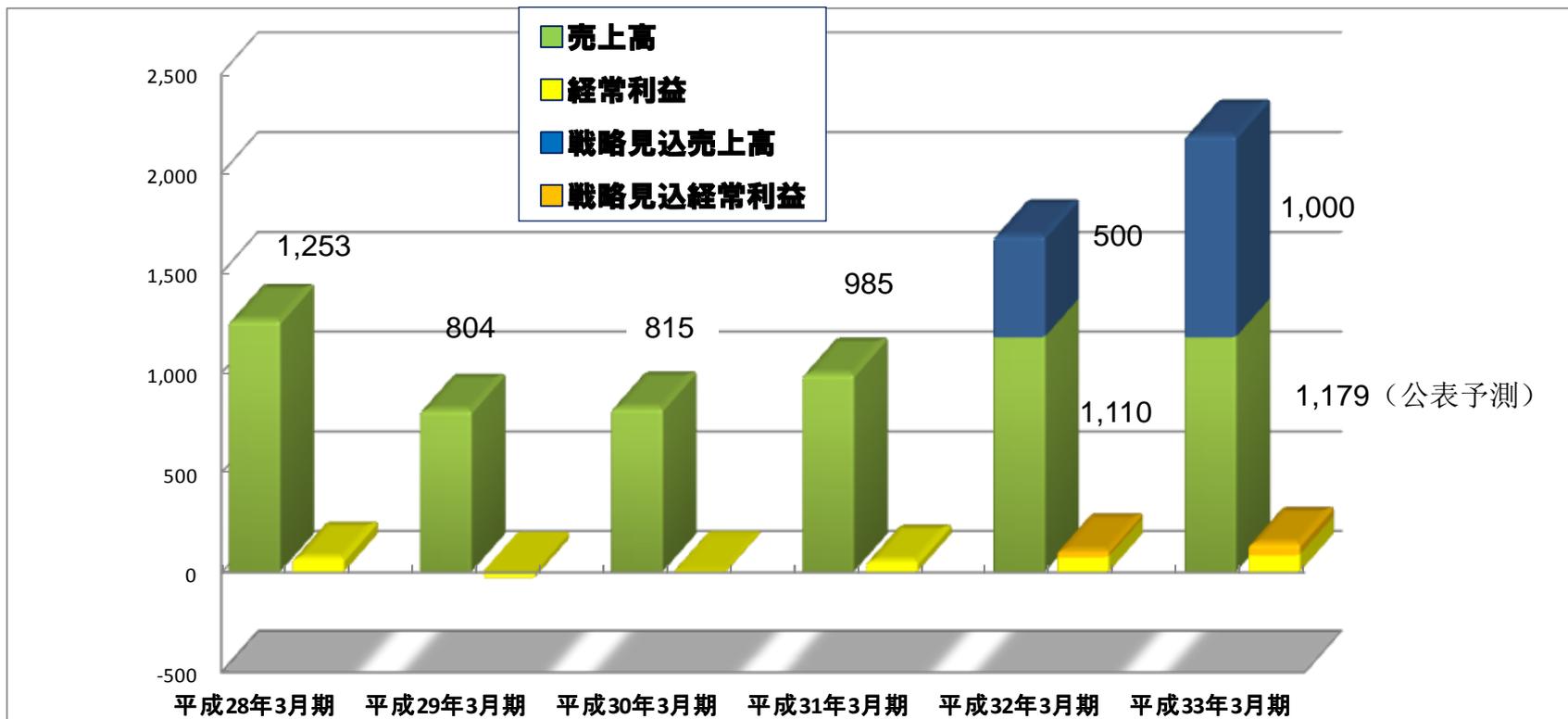
- 決済方法多様化の開発
- 決済サービスを活用した新たな受注先の
開拓



3か年計数計画



■ 平成30年3月期	売上高	815百万円、	經常利益	5百万円
■ 平成31年3月期	売上高	985百万円、	經常利益	47百万円
■ 平成32年3月期	売上高	1,610百万円、	經常利益	101百万円
■ 平成33年3月期	売上高	2,179百万円、	經常利益	136百万円

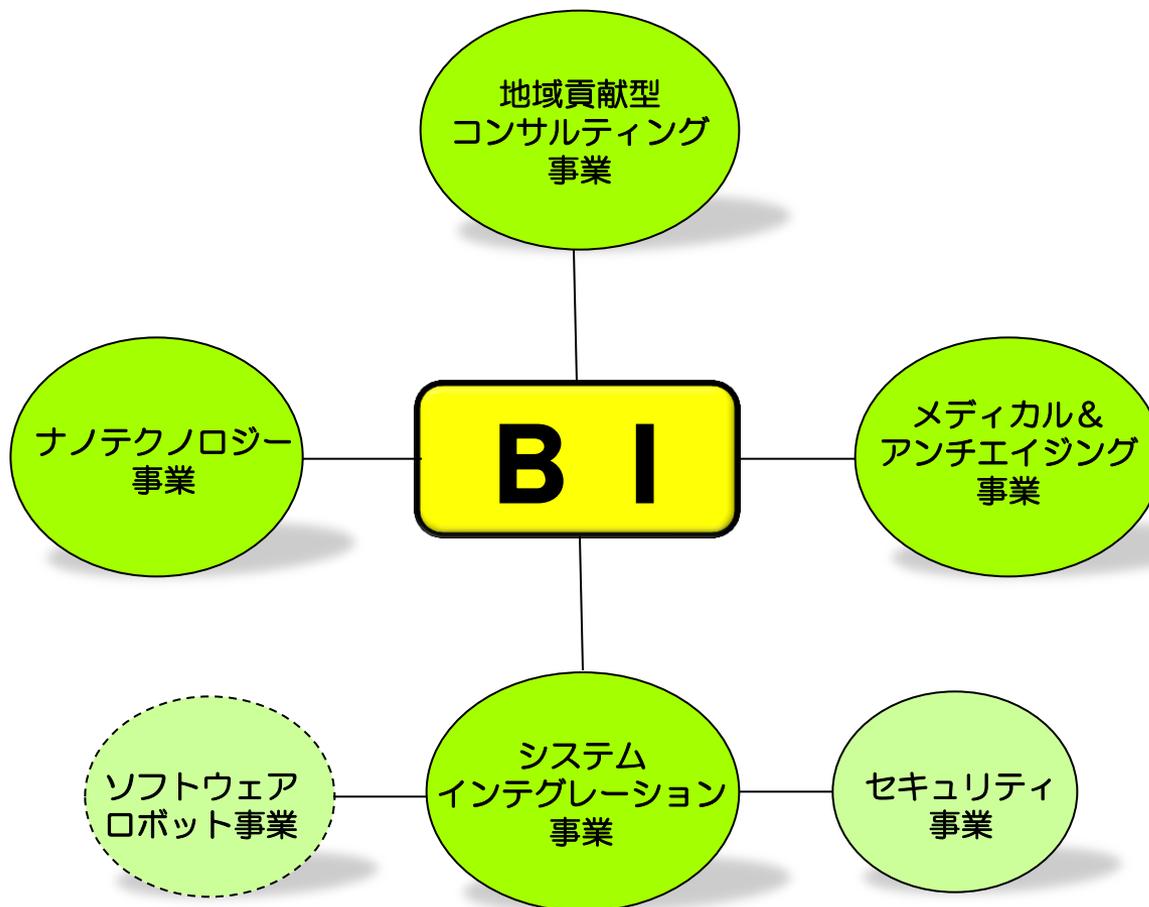


- I グループ概要
- II 平成29年3月期 決算概要
- III 資本準備金の額の減少及び剰余金の処分
- IV 新設会社分割
- V アイデポルテを連結子会社化
- VI 中期経営計画（計数計画）
- VII 今後の中期戦略

「システムインテグレーター」から「ビジネスインテグレーター」へ

ビジネスインテグレーションとは、革新著しいITを駆使した新機能やサービスを統合し、新しいビジネスモデルを創出することを意味します。

私たちは、これからの未来に向けて、独創的で高付加価値なサービス、製品を実現するため、様々なビジネスプラットフォームの構築に着手しています。



成長ビジネスへの積極転換(1)

1. コアビジネスの規模・機能の大幅拡充(システムインテグレーション事業)

「ビジネスインテグレーション」の実現を目指して

さまざまな経営やシステムの課題は、個別に考えるのではなく、常に同時にデザインし、相乗効果を最大限に発揮させることが必須となります。例えば、近年企業の課題となっているコンプライアンス（法令遵守）やセキュリティ対策においても、単にやらなければならないこと、コストアップ要因としてとらえるのではなく、企業全体の最適化の一環としてとらえ、業務プロセスやシステムの改善も同時にすすめ、トータルでのコストダウンや競争力の強化に結びつけるべきです。

当社は、企業のITパートナーとして、特定ベンダや製品に依存しない中立な立場をとり、戦略からシステム構築、構築後の運用や事業戦略に沿ったその後の拡張に至るまで、これらを総合的に支援し、最適な経営環境を実現する、先進ITを駆使するビジネスインテグレーションを実現いたします。

成長ビジネスへの積極転換(2)

2.地域貢献型コンサル事業の長期継続的成長（沖縄北栄等）

3.先行投資事業の拡大・収益化(メディカル&アンチエイジング事業)

「メディカル&アンチエイジングモール銀座」を展開しています

私たちは、医療、健康、癒しのサービス事業者が集結する複合モールを東京・銀座で展開しています。不動産の賃貸のほか、予約管理、集客支援、販売商品の提供や開発支援など、他企業とのアライアンスにより、スタートアップのお客様でも起業に必要な様々な機能をオールインワンでご提供いたします。

また本モールは、スタートアップの皆様を支援する機能だけでなく、不動産オーナーの方々へ不動産の有効活用をコンサルティングするショールームとしても機能しており、全国への拠点拡大を図ってまいります。

新規分野へのチャレンジ

1. ナノテクノロジー事業

2. ソフトウェア・ロボット事業

グループ経営の強化

本日は、ありがとうございました。

<お問い合わせ先>

担当窓口： イメージ情報開発株式会社

取締役経営管理室長 佐藤 将夫

TEL : 03 - 5217 - 7811

FAX : 03 - 5217 - 7816

URL : <http://www.image-inf.co.jp/>

本資料には、将来にわたる見通しに関する記述が含まれております。これらは現時点での予測であり、実際の業績は、今後の経済動向やその他の社会・政治情勢など様々なリスクや不確定要素により、見通しとは異なる結果となる可能性があることをご了承ください。